

うるま市立高江洲中学校  
学校だより  
2018年度 第12月号  
発行:校長 田港朝満



# 同志小

「同志小(どうしぐわあー)」とは  
同じころざしをもった仲間(友達)が集  
まった学校を目指すという意味です。

## 年が改まる時期を迎えて

### 時の流れの中で今年をふり返ること

今年も残すところ2週間ほどとなりました。様々な行事や大会に彩られた2学期も終わり新年を迎えます。2018年は、生徒の皆さん、保護者の皆さんにとってどんな年だったでしょうか。おそらく良いこともあれば思うようにならないこともあったことでしょう。誰もが良いことだけを望みますが、それは不可能に思えます。大切なことは良いことも悪いことも、しっかりと受け止めて前に進んで行ける力をもっていることだと思います。校長として全ての生徒が自分の人生を自分の力で切り拓いていける人に成長してくれることを願っています。

もうすでに5ヶ月も前の話になってしまいましたが私は、1学期の終業式に「時」の話をしました。あれから生徒の皆さんは5ヶ月という時を過ごして



てきたことになりま  
す。「時」には「現在」と「過去」と「未来」があつて人は、この三つの時について様々な場面で語り、その「時」に想いを寄せて生きています。しかし、この三つの「時」の中で自分の力で変えられるのは現在、つまり「今」という「時」だけなのです。過ぎてしまった過去は、どうにもなりませんし、これから訪れる未来のことを心配していても何も始まりません。三つの「時」の中で唯一、自分の力で変えることができる「今」を大切にすることこそ過去を輝かせ、未来の可能性を広げる唯一の方法であることに気づいてほしいと思います。

有名な塾の講師、林修先生が「今でしょ!」という言葉で人気を集め、みんながいろんなシーンで「今でしょ!」を連発していた時期もありましたが、あの「今でしょ!」の前には大切な一言があったことを知っていますか?それは「いつやるの?」という問いかけでした。「いつやるの?」「今でしょ!」塾へ来た生徒たちに今を大切にすることを気づかせ、今しかないとやる気を奮い立たせるために使っていた言葉だと思います。本校にも林先生のイラストと共にこの言葉が掲示されていますが、その掲示物にはしっかりと「いつやるの?」の問いかけが載っていますね。掲示した人の思いも、このようなところにあったのではないのでしょうか。



2学年階段の掲示物

そして、もう一つ大切なことは1年間という長い「時」も一日の積み重ねであることです。人は一日というサイクルで行動し日々を重ねていきます。何か月も飲まず食わず、眠ることもなしに頑張り続けることはできません。一日の生活リズムがとても大切と言われる理由もここにあるのかもしれない。そして今日一日は、今という瞬間の積み重ねです。今を大切に生きる人は、結果的に自分の人生を充実したものにしていけるようになります。

今年の締めくくりの時期に自分は、どんな「今」を積み重ねてきたのかを考えてみるのも大切だと思います。

### Eighteenグランプリ

去る12月12日(水)に本校初の行事となるEighteenグランプリが生徒会の主催で開催されました。年度当初の計画には無かった行事のため学期末大清掃の合間をぬっての開催となりましたが生徒会が自主的に企画・運営し、ルールについても考えて実現した行事であることに大きな意義があると考えます。

私は審査員をさせていただきましたが中には、これは一定のレベルを超えて目指しているものが違うというものもあり、生徒たちの新たな側面と可能性を見たように思います。生徒自身の中に「伝えたい」「表現したい」ものがあるか「目指しているものがどのレベル」であるかによって観客に伝わるものは大きく異なることを会場にいた全員が感じたのではないのでしょうか。

誰もが認める良いものは伝統となり引き継がれていきます。単なるお楽しみ会のレベルに留まるのであれば、いつか消えてしまうのかもしれない。今年初めてとなるこの行事を次年度に向けて育てていくのは新しい生徒会のメンバーと全校生徒の意識だと思います。願わくば全ての出演者が先生方を唸らせるパフォーマンスを繰り広げ感動が沸き起こるような行事に成長していくことを期待します。



高江洲ゲゲゲイ

lberis



opio

オタッキー

マナティー

### 技術部の躍進 ロボットコンテストで全国大会へ

技術部が10月に開催された沖縄県アイデアロボットコンテストで沖縄県代表に選出され、12月に開催された九州大会でも準優勝し全国大会への派遣が決まりました。

技術部にとっては、最も重要な大会での全国大会出場を果たし、そのレベルの高さを示す結果となりました。顧問の田川先生によるとアイデアと操縦技術を磨く練習量の多さが勝因ということでした。アイデアロボットコンテストは、費用がかかる部門もあり、本校は限られた予算と条件の中で活動を続け、このような結果を得たのは、部員の意欲と粘り強い探究心に支えられた活動があったからこそと考えます。全国大会でも実力を発揮し本校の歴史に新たな1ページを刻んでくれることを期待しています。

